

フラガ選手 3 連続 2 位、ヴィダーレス選手初表彰台 木村選手は王座争いに踏みとどまる

B-Max Racing Team (チーム総代表・SFL チーム代表 組田龍司) は、9月9～10日、岡山国際サーキットで行われた全日本スーパーフォーミュラ・ライツ選手権第13～15戦に参加し、イゴール・オオムラ・フラガ選手が3戦とも2位と安定した速さを見せました。ヴィダーレス選手は第15戦で初の表彰台に上り、チャンピオン争いを繰り広げている木村偉織選手は、僅かに差を開かれてしまったものの最終大会に望みを繋ぎました。

マスタークラスは、今田信宏選手が2勝し、3年連続チャンピオンに王手をかけました。

■第13,14戦予選 (9月9日(土) 午前10時30分～11時00分)

週末、日本列島に台風が接近していたものの中国地方に影響はなく、予選日は好天に恵まれました。事前に行われた専有走行では、フラガ選手が好調を維持しており、期待を持って予選に臨みました。

第13戦の予選は、まず木村選手が2週のウォームアップ後にアタックしますが、タイミング悪く他車に詰まってしまう4位。フラガ選手、ヴィダーレス選手は1周長いウォームアップからのアタックで2位と5位。満足できる結果ではありませんでしたが、揃って上位グリッドを獲得しました。

第14戦の予選は、フラガ選手が一発アタックを決めて見事ポールポジションを獲得。連続アタックを行った木村選手は立て続けに1分23秒台をマークしますが3位、ヴィダーレス選手はタイムを伸ばせず8位でした。



	ドライバー	Rd13 予選タイム(順位)	Rd14 予選タイム(順位)	Point (累計)
50号車	木村偉織	1分24秒215 (4)	1分23秒746 (3)	0 (76)
51号車	D.ヴィダーレス	1分24秒575 (5)	1分24秒845 (8)	0 (11)
52号車	I.O.フラガ	1分24秒119 (2)	1分23秒649 (1)	1 (26)

天候：晴れ、コース：ドライ、気温：29度、路面温度：40度

■第13戦決勝 (9月9日(土)午後2時50分～25周)

ポールポジションの小出選手が逃げ、2位フラガ選手、3位野中選手、4位木村選手、5位ヴィダーレス選手らが追う展開となりました。上位に順位変動はないまま迎えた11周目、木村選手にシフト系のトラブルが発生しスローダウン。木村選手はシステムをリセットしてペースを取り戻しますが、8位まで順位を落としてしまいました。

ポイントをもぎ取ろうと諦めずに追いつけた木村選手でしたが、23周目のヘアピンで6位のトゥルーリ選手に仕掛けた際に押し出される形になり、そこでレースを終えました。

終盤になっても上位陣に変動はなく、小出選手が優勝、フラガ選手は2位、ヴィダーレス選手は4位でフィニッシュしました。



	ドライバー	決勝順位	ベストタイム (順位)	Point (累計)
50号車	木村偉織	11位	1分25秒913 (4/11)	0 (76)
51号車	D.ヴィダーレス	4位	1分26秒195 (6/11)	3 (14)
52号車	I.O.フラガ	2位	1分25秒569 (2/11)	7 (33)

天候：晴れ、コース：ドライ、気温：32度、路面温度：43度

■第 14 戦決勝 (9 月 10 日 (日) 午前 8 時 50 分～18 周)

暑さは変わらないもののやや過ごしやすい天候となった日曜日。初のポールポジションからスタートしたフラガ選手でしたが、好ダッシュを決めた小出選手に 1 コーナーで前に出られてしまいました。後方では、7 位のトゥルーリ選手に仕掛けたヴィダーレス選手が接触されてしまい、トゥルーリ選手の車両はストップ。このアクシデントで 1 周目からセーフティカーランとなりました。

4 周を終えてリスタートになりますが、小出、フラガ、木村選手のトップ 3 に変化はなく、間隔が詰まることはあったものの、入れ替わるまでには至らず、結局この順位のままチェッカーを迎えました。

レース後半、注目されたのがチャンピオン争いを繰り広げる二人、木村選手と平良選手によるファステストラップの 1 ポイントを巡る攻防でした。この勝負は、最終ラップにファステストをマークした平良選手に軍配が上がりましたが、順位変動の少ないレースのなかで大きな見せ場でした。



	ドライバー	決勝順位	ベストタイム (順位)	Point (累計)
50 号車	木村偉織	3 位	1 分 24 秒 764 (3/11)	5 (81)
51 号車	D.ヴィダーレス	7 位	1 分 25 秒 606 (7/11)	0 (14)
52 号車	I.O.フラガ	2 位	1 分 24 秒 828 (4/11)	7 (40)

天候：晴れ、コース：ドライ、気温：29 度、路面温度：34 度

■第 15 戦決勝 (9 月 10 日 (日) 午後 2 時 45 分～18 周)

曇り空になったものの蒸し暑さの残るなかスタートを迎えました。フロントロースタートのフラガ選手は好スタートを切りますが、ポールポジションの小出選手を抜くまでには至らず、両者に野中選手、平良選手が続き、4 番手スタートのヴィダーレス選手はポジションを落としてしまいます。

しかし、ヴィダーレス選手は 1 周目に平良選手を、2 周目には野中選手をアウトウッドコーナーで立て続けにパス。3 位に浮上し、以降トップ 3 はそのまま周回を重ねました。

最後尾スタートとなった木村選手は 7 位まで順位を上げますが、そこからのポジションアップは容易ではなく 7 位をキープしてレースは進みます。

15 周目に野中選手がコースオフ。セーフティカーが導入され、結局そのままレースは終了。フラガ選手は悔しさの残る 3 連続の 2 位、ヴィダーレス選手は初の表彰台を射止め、木村選手は 6 位で 1 ポイントを得ました。



	ドライバー	決勝順位	ベストタイム (順位)	Point (累計)
50 号車	木村偉織	6 位	1 分 25 秒 781 (2/11)	1 (82)
51 号車	D.ヴィダーレス	3 位	1 分 25 秒 865 (4/11)	5 (19)
52 号車	I.O.フラガ	2 位	1 分 25 秒 781 (2/11)	7 (47)

天候：曇り、コース：ドライ、気温：31 度、路面温度：39 度

今大会を終え、シリーズポイントは、平良選手 92、木村選手 82、今大会 3 連勝を飾った小出選手が 76 となり、チャンピオン争いは三つ巴の様相を呈してきました。

■50,51 号車チーム監督 高木真一コメント

偉織選手に関しては、Q1（第 13 戦予選）の重要性を意識しながら予選に臨みましたが、運悪く前車に引っかかってしまいました。アタックする際の間合いが良くなかったとしか言いようがありませんが、あれがなければフロントローはいけたはずです。レース 1 のシフトの問題も滅多に出るものではありませんが、今回に限って出てしまいましたので、これも運に見放されたのかもしれませんが。

結果的に、今大会で平良選手とのポイント差を詰めるはずが、逆に開かれてしまいました。ただ、3 レースともに速さはありましたので、レースをしっかりと組み立てて流れを掴めれば、いけると思います。最後のもてぎは開幕大会のような結果を出すべく臨みたいと思います。

デビッド選手は、この週末、流れは決して良くありませんでしたが、上手くアジャストして、最後は実力で 3 位をもぎ取りました。シリーズも終盤になってしまいました。ライツのレースを理解したことが結果に繋がったように感じています。この勢いで最終大会はトップ争いをしてほしいと思います。

■52 号車チーム監督 松浦孝亮コメント

今シーズンのなかで、最も速さと強さを示すことのできた週末でした。今回から新たに杉崎エンジニアにサポートとして加わってもらい、イゴールの望むクルマに仕上げることができたのが大きかったと思います。予選もあと少しで 2 戦ともポールを取れるところでした。

ただ、スタートで遅れてしまうと、ライツでは抜き返すことは非常に難しく、特にポールスタートを結果に結び付けられなかった第 14 戦の 2 位は悔しい結果でした。でも、一つずつ問題点を改善していくしかないと思っています。ライツでは、予選、スタート、決勝ペースと、すべてが上手くいかないと優勝できませんので、最後のもてぎラウンドではそれができるよう頑張ります。

■50 号車ドライバー 木村偉織選手コメント

専有走行から Q1 でポールを取るために組み立てていきましたが、Q1 が上手くいかなかったことで流れが崩れてしまったように思います。それでも、トラブルや接触もあったレース 1 と、3 位になったレース 2 はやり切った感があります。レース 3 は初めての最後尾スタートということもあって、少し冷静さを欠いてしまった部分がありました。

全体的にはレースペースも悪くありませんでしたし、速さはあったもののパズルのピースがうまくハマらなかったという感じです。その原因がどこにあったのかをしっかりと分析して最終大会に生かしたいと思います。

まだチャンピオンが決まったわけではありませんので、最終大会ではポイントを意識せず、一つずつ勝ち星を重ねたいと思います。

■51号車ドライバー デビッド・ヴィダーレス選手コメント

表彰台までかなり時間がかかってしまいました。表彰台に上るのはいつも素晴らしいことですが、まだ満足はしていません。今週末は決して良い状態ではありませんでしたが、それでも、第3レースが最もチャンスがありましたので、望んだ結果を出すことができ嬉しいです。B-Maxをはじめサポートしてくれたすべての人、またチャンスをくれたモナコ・インクリース・マネージメントに感謝します。

最終大会までには十分な時間がありますので、今回の問題点を分析、改善して、さらに強くなってレースに臨みたいと思います。

■52号車ドライバー イゴール・オオムラ・フラガ選手コメント

今シーズンで一番良い週末でしたが、同時に一番悔しい週末でした。特にレース2は、あと少し足りずに2位となってしまい非常に悔しい結果でした。

今シーズンはレース参戦までに多くの人に協力してもらい、シーズンが始まってからもチームにかなり無理を言ってきました。今回も強力な体制を用意してもらったにもかかわらず、その恩返しをすることができませんでした。これは最終大会で実現したいと思います。

いろいろな改善の積み重ねが結果として出てきているので、この流れを絶やさずにさらに努力すれば結果は得られると思っています。

マスタークラス

■第 13,14 戦予選

富士大会は欠場だった畑選手がエントリーし、三つ巴の戦いになると思われた今大会は、専有走行から好調の DRAGON 選手が、二人に対し優位性を保ったまま予選を迎えました。

第 13 戦予選では、DRAGON 選手は連続で 1 分 26 秒台をマークしアタック終了。今田選手と畑選手は一度アタックした後にタイヤ温度を一旦下げて再アタックしましたが、DRAGON 選手には届きませんでした。続けて行われた第 14 戦予選は、三者ともに連続でアタックをし、今田選手、畑選手は 13 戦から大きくタイムアップしますが、DRAGON 選手は 1 分 26 秒フラットを連発して、2 連続クラスポールポジションを獲得しました。

	ドライバー	Rd13 予選タイム(順位)	Rd14 予選タイム(順位)	Point (累計)
4 号車	今田信宏	1 分 26 秒 894 (M2)	1 分 26 秒 167 (M2)	0 (89)
30 号車	DRAGON	1 分 26 秒 452 (M1)	1 分 26 秒 031 (M1)	1+1 (78)
53 号車	畑 享志	1 分 27 秒 458 (M3)	1 分 26 秒 935 (M3)	0 (53)

■第 13 戦決勝

クラス 2 番グリッドからスタートを決めた今田選手がトップに立ち、DRAGON 選手との差を徐々に広げ、レース折返しの 13 周目には 5 秒以上のマージンを築きました。このまま今田選手が独走するかと思われましたが、ピックアップに悩まされていた DRAGON 選手のペースが戻ると、今田選手に急接近。最後のゴールラインではその差僅かに 0.6 秒と、今田選手が薄氷の勝利を収めました。



	ドライバー	決勝順位	ベストタイム (順位)	Point (累計)
4号車	今田信宏	M1位 (総合 8位)	1分27秒570 (M2)	10 (99)
30号車	DRAGON	M2位 (総合 9位)	1分27秒564 (M1)	7+1 (86)
53号車	畑 享志	M3位 (総合 10位)	1分27秒984 (M3)	5 (58)

■第14戦決勝

第13戦と同じ轍は踏むまいとスタートでトップを守った DRAGON 選手は、序盤から1分26秒台を連発。27秒台の今田選手、28秒台の畑選手との差を開いていきました。

DRAGON 選手は、10周目には今田選手との差を3秒にまで広げると、その後もペースを緩めることなく周回を重ねました。終盤、今田選手も自身のベストラップを更新し続けて意地を見せますが、DRAGON 選手に迫ることはできませんでした。



	ドライバー	決勝順位	ベストタイム (順位)	Point (累計)
4号車	今田信宏	M2位 (総合 9位)	1分26秒435 (M2)	7 (106)
30号車	DRAGON	M1位 (総合 8位)	1分26秒420 (M1)	10+1 (97)
53号車	畑 享志	M3位 (総合 10位)	1分27秒410 (M3)	5 (63)

■第15戦決勝

抜群のスタートを見せた今田選手が、またしても DRAGON 選手の前へ。追撃体勢に入った DRAGON 選手ですが、アウトウッドコーナーで畑選手が DRAGON 選手に接触。両者はスピンし、畑選手はノーズ交換のためピットイン。DRAGON 選手はコース復帰に時

間を要し、1周目で今田選手に16秒というビハインドを背負ってしまいました。

ここから鬼神の追い上げを見せた DRAGON 選手は、今田選手のラップタイムを1秒近く上回るペースで、その差を5周目に12秒、10周目に7秒、14周目には5秒と、着実に今田選手を追い詰めていきました。

ところが、15周目に野中選手がコースアウトしセーフティカーが導入されたことで、この追撃も幕切れとなり、今田選手が今季8勝目のチェッカーを受けました。



	ドライバー	決勝順位	ベストタイム (順位)	Point (累計)
4号車	今田信宏	M1位 (総合 8位)	1分27秒520 (M2)	10 (116)
30号車	DRAGON	M2位 (総合 9位)	1分26秒928 (M1)	7+1 (105)
53号車	畑 享志	M3位 (総合 10位)	1分27秒514 (M3)	5 (68)

今大会の結果、シリーズポイントは、今田選手が DRAGON 選手に11点差をつけることになりました。最終大会は畑選手が欠場予定のため、両者の一騎討ちになりそうですが、台数の少ないマスタークラスではポイント差がつきにくいいため、DRAGON 選手にとっては非常に厳しい状況になりました。

■4号車ドライバー 今田信宏選手コメント

週末を通して、DRAGON 選手に速さで遅れをとってしまい、課題が残った大会でした。自分としてもそれなりにプッシュはしていましたが、レースラップでコンマ5秒から1秒の差をつけられてしまいました。

スタートは3レースとも良かったので、2勝することができましたが、やはりレースラップの差が大きかったですね。コースに対して苦手意識もないですし、どちらかという好きなコースですが、考えられる要因としては、攻めたい気持ちを抑えて乗るFIA-F4のドライビングの癖が残ってしまっていたような気がします。

最終大会のもてぎは切り替えて、フルマークで3連勝できるよう頑張ります。

■30号車ドライバー DRAGON 選手コメント

この週末、速さはありましたが、決めきれなかったという感じです。特にスタートが、この大会までは100パーセントの確率で決まっていたのですが、今大会はリアクションタイムも悪く、噛み合いませんでした。レースは今田選手に対して1勝2敗でしたが、速さでは、専有走行から予選、決勝まで上回っていましたので、その点は嬉しいですね。

シリーズポイントでは、逆転が難しくなりましたが、最後のもてぎでは、できる限り抵抗したいと思います。

■53号車ドライバー 畑 享志選手コメント

この週末は、クルマのセットが決まらないまま終わってしまった感じです。セッティングを進めるなかで、好調だったイゴール選手のセットに寄せてみたりもしてみましたが、アンダーが強くなったりして、方向性を見失い迷ってしまいました。ドライビングでもブレーキングポイントを変えるなど、いろいろ試しましたが、結果的にあまり改善されませんでした。

最終大会は出場しませんので、今シーズンの参戦は今大会で終了です。来年の参戦は未定ですが、またチャンスがあれば出たいと思います。



Press Release

2023.9.14

B-Max Racing Team

B-MAX ENGINEERING 株式会社 MS 事業部

252-1107 神奈川県綾瀬市深谷中 8-8-2

TEL 0467-39-5960 / FAX 0467-39-5940

<http://www.b-maxracing.co.jp/>

